

記念碑除幕式挨拶

九州大学学生寮同窓会会長の 樋渡と申します。

本日は、年末の大変あわただしい中、また大変お寒い中、九州大学田島寮記念碑の除幕式にお集まり頂き、ありがとうございます。

さて、九州大学田島寮は、昭和28年10月に、旧制福岡女子専門学校(福岡県立福岡女子大学)の寄宿舍を譲り受けたところから歴史が始まっています。

当時の記録には、58名の寮生が 良い香りが未ださめやらぬなか、淨らかな淑女の姿を夢に画いて楽しい日々の明け暮れが始まったとあります。

昭和52年3月には新田島寮が完成、そこには、当時の先輩方の10年以上にわたる血の滲むような努力と粘り強い交渉があったと聞いています。当時は学生運動が盛んな時代で、田島寮が日本の歴史の表舞台に登場してきます。一番活動的で華やかな時代ではなかったでしょうか。

その後、平成21年3月に閉寮するまでの実に56年間、この地にて多くの学生たちが、学び、遊び、飲み、そして踊り、巣立っていきました。

我々九州大学学生寮同窓会では、平成25年7月5日に開催された田島寮最後となる第52回寮祭(熱き心よ、伝説となれ)の支援、また、翌26年3月21日には、田島寮閉寮式典、記念懇親会を開催してきたところです。 当時から、田島寮のシンボリックなものを何か残せないか。との声はあがっていましたが、今般、学生寮同窓会発足30年を記念して、田島寮への惜別の思いを後世に残そうという機運が盛り上がり、同窓会会員有志から寄付を募り、記念碑を建立する運びとなったものです。

記念碑は、『理想』に燃え、広大無辺の『志』と『夢』を膨らませて共同生活を送った 延べ1万人にも及ぶ寮生たちをイメージした花崗岩の原石に、この地が、我々の原点であった。 全ては田島寮から始まったとの思いをこめ、田島寮を象徴する一文字『発』と 以下の碑文を刻んでいます。

この地に九州大学田島寮あり、昭和28より平成21年に至る我らが心の故郷なり
しじまを破る寮歌や樽みこし 真実の扉を開けし寮友たち ここに集へり。

寮生活を経験した我々にとって、幼少の時代をすごした故郷のように、田島寮での思い出は財産です。そこに身をおけば、いつも気安く迎えてくれる友がおり、問題解決のヒントがある。 田島寮は我々にとって心の故郷なのです。

この 記念碑は、博多どんたくに恒例参加している『樽神輿』とともに、学生時代に即座にタイムスリップさせてくれる貴重な存在となるはずです。

本日、福岡市の協力も得て田島北公園に設置できることとなり、皆様にお披露目できることを、本当に嬉しく思いますし、皆様とともにこの喜びを分かち合いたいと思います。

我々の田島寮への愛着は、そのまま九州大学への愛着、誇りでもあります。

九大の全ての学生寮、そして、母校九州大学のますますの発展を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。

九州大学学生寮同窓会長 樋渡 和 浩